

会話データに見る「エイヌ語」と現代ウイグル語の関係

林 徹

(The Eynu and Uyghur Lexemes in Conversation Data)

Tooru HAYASI

(pp. 271-290)

Contribution to the Studies for Eurasian Languages series vol.15

『チュルク諸語における固有と外来に関する総合的調査研究』
Native and Loan in Turkic Languages

九州大学人文科学研究院言語学研究室 Department of Linguistics, Graduate School of
Kyushu University／ユーラシア言語研究コンソーシアム The Consortium for Studies of
Eurasian Languages

2009 March

ISBN 978-4-903875-18-7

会話データに見る「エイヌ語」と現代ウイグル語の関係¹

林 徹

(東京大学)

hayasi@L.u-tokyo.ac.jp

1. はじめに

中国西部の新疆ウイグル自治区では、中国語に続き、現代ウイグル語（以下では単にウイグル語と呼ぶ）が優勢な言語である。特に自治区南部の地域においては、近年中国語の話者が次第に増加しつつあるものの、ウイグル語が多くの人々の母語として、依然活力を維持し続けている。しかし、タクラマカン砂漠の南縁には、周囲のウイグルの人々からアブダル (Abdal) と呼ばれる小集団が存在する。彼らは通常ウイグル語を話しているが、ウイグル語とは異なるもうひとつの言語を持っていると言われる。ここではその言語を便宜上「エイヌ語 (Eynu)」と呼ぶことにする。

アブダルの人々の起源については諸説あり、エイヌ語の起源についてもはっきりしたことは何もわかっていない。しかし、F. Grenard が 1893 年にケリアとチェルチェンでアブダルの人々に会っていること、同じときに周囲のウイグルの人々は彼らを「アブダル」として認識していたことから考えて、少なくとも 19 世紀末以前からアブダルと呼ばれる小集団がいわゆるトルキスタン東部に散在していたと推測される (Grenard 1898: 308f.)。その言語に関しては、現状で見る限り、ウイグル語と同じ音韻および文法と、多くがペルシア語に由来すると考えられる語彙を持つ。そこで、最初の言語学的調査報告である Zhao and Aximu (1981, 1982) は、ウイグル語とイラン系の言語との混成言語ではないかと推定し、その後エイヌ語が混成言語であるという見方が定説となっている (Wurm 1997)。

一方、私は 3 名の共同研究者とともに、エイヌ語は混成言語ではなく、

¹ 草稿に対して藤代節氏からの確かなコメントをいただいた。コメントのすべてを活かすことができたわけではないが、草稿の段階で残っていた論理の矛盾や不明瞭な説明、書式の不統一を随分と減らすことができた。ここに記して感謝する。なお、本稿とほぼ同内容の原稿を *Dilbilim Araştırmaları Dergisi* 2014/2 に “Mixed language in use: A case of Eynu, a modern Uyghur-based secret language spoken in the south of Taklamakan” として投稿の予定であることを申し添える。

ウイグル語にはない借用語を持つウイグル語の変種であるという立場を取ってきた (Hayasi, Sabit Rozi, Tahirjan Muhämmät and Wang 1999)。以下に述べるように、我々が面会でできたエイヌ語の話者たちが、普段はウイグル語のみを話し、エイヌ語を秘密語として使っていること、限られた語彙以外にエイヌ語をウイグル語から区別する特徴がないことがその理由であった。しかし、混成言語の中でもっとも一般的なのが、音韻・文法と語彙とが別々の言語に由来する *intertwined type* であることを考えれば (Bakker 2003)、エイヌ語を混成言語でないとする我々の主張は、あまり強いものとは言えない。

そこで本報告では、僅かながら記録することのできたエイヌ語による会話例に基づき、エイヌ語に特有の単語がどのように用いられるかを観察し、ウイグル語の単語との関係を検討することにしたい。なお、本報告の第1節から第3節までは、林 (2007) と重複する内容を含んでいることをあらかじめお断りしておく。

2. アブダルの人々

ここで用いるデータは、1997年、1999年、2001年のそれぞれ夏におこなった現地調査による（調査は新疆ウイグル自治区社会科学院との合同でおこなわれた。詳細は Hayasi, Sabit Rozi, Tahirjan Muhämmät and Wang 1999 および 林, サービット・ローズィー, ターイルジャン・ムヘット, 王 2002 を参照のこと）。1997年の調査は主にカシュガル県の Shäyxil 村を中心におこなった。この村はカシュガル市の南東約 45 キロの地点にある²。1999年にはホータン県の Xeni 村と Tamighil 村を中心におこなった。Xeni 村はホータン市の西の郊外, Tamighil 村はホータン市の東隣りの Buya 郡に属す。2001年には、すでに訪れた3つの村に加え、Bash Qachun, Boghaz Längär, Uqadi, Därvish, Hälämbagh を訪れたが、Bash Qachun のみでエイヌ語を知っている人と出会うことができた。結局8つの地点を訪れ、うち4地点でエイヌ語に関する何らかのデータを得ることができた (図1)。

² 公的にはハンエリク郡 (XaneriQ Bazar) の第15村 (känt) と呼ばれ、調査時に得られた最新の資料によれば、村の総人口は1345人であった。ただし、村の住民の全員がアブダルの人々かどうかについては確認できなかった。



- | | | | |
|------------|-------------|---------------|-----------------|
| 1 Shäyxil | 2 Hälämbagh | 3 Därvish | 4 Xeni |
| 5 Tamighil | 6 Uqadi | 7 Bash Qachun | 8 Boghaz Längär |

図 1 調査地点

調査はウイグル語を媒介言語としておこない、語形変化の情報や例文も可能な限り収集した。ただし、いずれの調査地点においても、エイヌ語についてある程度の知識を持つ人はわずかで、ほとんどの人たちは、多少のエイヌ語の単語を知っていたり理解することができるものの、その知識は断片的であった。語彙調査の合間に、僅かの会話データを得ることもできた。

エイヌ語が使用される状況は以下のとおりである。少なくとも我々が訪れた4地点においては、エイヌ語は秘密語として用いられるという情報がコンサルタントたちから寄せられた。従来の研究 (Zhao and Aximu 1981, 1982, Lee-Smith 1996, Wurm 1997) ではエイヌ語はアブダルの人々の母語であると報告されていたが、我々に協力してくれたコンサルタントたちはみな、家の内外を問わず通常ウイグル語を話し、よそ者がいる場合にのみ、自分たちの話す内容を知られないようにエイヌ語を話すと言う。また、女性はあまりエイヌ語を知らないこと、エイヌ語を大人の男たちが話すのを聞いて習得すること、現在では、秘密語とは言っても、ほとんどの場合男

性同士で冗談を言うときに使うこと、などの情報も得られた³。

最初からエイヌ語が秘密語であったかのかどうかはよくわからない。また、アブダルの人々がなぜ秘密語を必要とするようになったのかもはっきりしない。しかし、現地の行政機関幹部は、アブダルの人々が秘密語を持つようになったことと、アブダルの人々と周囲のウイグルの人々の社会関係とが関与しているかもしれないと示唆する。なぜならば、アブダルの人々は、その生活習慣により、周囲のウイグルの人々から差別され続けてきたからである。かつてアブダルの男性は、毎年数ヶ月間行商のために村を出る習慣だった。割礼にも携わった。さらに、売るものがなくなると、物乞いをするかも知ったという。(あるいは、差別されていたために、このような生活習慣が生じたのかもしれない。)

婚姻は多くの場合、村の内部で結ばれ、周囲のウイグルの人々と通婚することはなかったという。現在でも周囲の村との通婚は少なく、村の内部、あるいは遠く離れた村との通婚が多いようである。

アブダルの人々は、ホータン県の2つのアブダルの村、Xeni と Tamighil の場合を除き、他の地域に住むアブダルの人々の存在を知らなかったようである。アブダルの村の間の通婚もまったく見られなかった。

3. エイヌ語の構成

以下の例文 (1a) はエイヌ語の文、(1b) はそれに意味上対応するウイグル語の文である⁴。

- | | | | | | | | |
|------|--|----------|-------------|----------|--------|----------|----------|
| (1a) | kalaŋ | käs-lä: | häs vol-di, | soxun-ni | kämtä: | qil-ayli | [Eynu] |
| (1b) | čoŋ | kiši-lä: | käl-di, | söz-ni | azraq | qil-ayli | [Uyghur] |
| | big | man-PL | come-PAST, | word-ACC | little | do-OPT | |
| | 'Big people (i.e. the cadre) have come, let's speak little.' | | | | | | |

この例文からもわかるように、エイヌ語とウイグル語との相違は語彙だけである。つまり、いわゆる機能語や拘束形態素は、エイヌ語とウイグル語

³ 調査地点1の Shäyxil の付近にある Yopurgha の出身の Abdureshid Yakup 氏によれば、女性がエイヌ語をよく知っている場合もあったとのことである。

⁴ 以下、例文は暫定的な音素表記による。代表的な異音は、/q/ は無声口蓋垂閉鎖音、/ŋ/ は軟口蓋鼻音または口蓋垂鼻音、/č/ は無声歯茎破擦音、/j/ は有声歯茎破擦音、/x/ は無声口蓋垂摩擦音、/g/ は有声口蓋垂摩擦音、/š/ は無声後部歯茎摩擦音、/:/ は長母音である。また、例文 (1) の略号は、ACC: 対格接尾辞、OPT: 願望形の接尾辞、PAST: 過去形の接尾辞、PL: 複数接尾辞をそれぞれ表す。

でまったく変わらない。例えば, (1a) で用いられている /kalaŋ/ 「大きい」, /käs/ 「人」, /häs vol-/ 「来る」 (ただし /vol-/ あるいは /bol-/ はウイグル語の「なる」という動詞), /soxun/ 「ことば」, /kämtä:/ 「少し」のようなエイヌ語の単語は, (1b) のウイグル語ではそれぞれ, /čoŋ/ 「大きい」, /kiši/ 「人」, /käl-/ 「来る」, /söz/ 「ことば」, /azraq/ 「少し」に置き換えられている。これはエイヌ語全般に見られる特徴で, ウイグル語と異なるエイヌ語の特徴は語彙, しかも内容語に限られる。

表 1 例文 (1a), (1b) におけるエイヌ語とウイグル語の語

Uyghur	Eynu	Persian	meaning
čoŋ	kalaŋ	kalang	<i>big</i>
kiši	käs	kas	<i>person</i>
käl-	häs bol-	hast 'existing'	<i>to come</i>
söz	soxun	soxon, soxan	<i>speech</i>
azraq	kämtä:	kamtar	<i>a little</i>

上の表 1 は, エイヌ語で使われる単語について, それぞれ対応するウイグル語とペルシア語の単語を示している。ここから明らかなように, エイヌ語で使われるエイヌ語独特の語彙 (以下, エイヌ語彙とも呼ぶ) の多くはペルシア語起源と推定することができる。しかし, 中にはアラビア語やウルドゥー／ヒンディー語に由来すると思われる単語や, 今のところ起源のわからない単語もある。

4. 会話に現れるエイヌ語彙

前節で述べたエイヌ語の構成を例示するために, 以下に, Shäyxil 村 (図 1 の地点 1) と Xeni 村 (図 1 の地点 4) で収集した会話例を見ることにする。テキスト 1 から 8 まだが Shäyxil 村で, テキスト 9 から 11 まだが Xeni 村で得られたものである。それぞれのテキストについて各発話に通し番号を付す。番号に続く a, b はそれぞれの話者を示す。各発話について, まずエイヌ語のテキストを示し, その下に対応するウイグル語のテキストを示す。聞き取りに自信のない部分は [] で囲んである。また, 聞き取れなかった部分は [...] で示す。

ウイグル語のテキストはエイヌ語のテキストとできるだけ対応するように選んだ。エイヌ語とウイグル語で意味の対応する単語を示すために、各単語の末尾に番号を付ける。番号が同じ単語は意味が対応する。エイヌ語のテキストで太字の部分は、エイヌ語彙に属する単語である。各発話の最後に日本語訳を付けた。{ } は補足的な部分を示す。

テキスト 1 1999年8月18日 Shäyxil 村において20代の男性2名の会話

- 01a **mačal₁ puxti₂ voldimu₃ ?**
 tamaq₁ täyyar₂ boldimu₃ ?
 食事はできあがったか？
- 02b yaq₁ **puxti₂ volmidi₃**
 yaq₁ **täyyar₂ bolmidi₃**
 いいや、できていない。
- 03a hayaši₁ äpändiniñ₂ **iškimi₃ gošnirip₄ kätti₅**
 hayaši₁ äpändiniñ₂ qosigi₃ ečip₄ kätti₅
 ハヤシさんのお腹はすいてしまった。
- 04a **mačal₁ xo:liğisi₂ häs₃ vop₄ [...]**
 tamaq₁ yigisi₂ kelip_{3,4}
 彼は食事を食べたくて...
- 05a **qeli:din₁ häs₂ vo:ğan₃ kalañla:~₄ gallidimu₅ ?**
 baza:din₁ kä:gän_{2,3} ka:dirla:~₄ qayttimu₅ ?
 町から来たえらい人たちは帰って行ったか？
- 06b yaq₁ **gallimidi₂**
 yaq₁ **qaytmidi₂**
 いいや、帰っていない。
- 07b ula:~₁ da:d[u]ydä₂ [...] **soxunl[a]šivatudu₃**
 ula:~₁ da:düydä₂ [...] **sözlišivatidu₃**
 彼らは大隊で話している。

- 08a **säpči₁ xo:lap₂ hä:sut₃ xo:lap₄ čimän₅ ko:l[a]šidu₆**
 qoğun₁ yäp₂ nan₃ yäp₄ xät₅ yezišidu₆
 メロンを食べてナンを食べて、彼らは字を書いている。

- 09a **bäččilä:₁ bisya:₂ [...]**
 balila:₁ köp₂
 子供たちはたくさん...

テキスト2 2001年8月27日 Shäyxil 村にて20代の男性2名の会話

- 01a **män₁ sava:da₂ ğildiriḡda₃ hatta:ḡa₄ häs₅ volap₆ goš₇ mačal₈⁵ xo:lap₉**
ġildiriḡa₁₀ čiz₁₁ gi:lap₁₂ häs₁₃ voldum₁₄
 män₁ ättigändä₂ terekturna₃ baza:ḡa₄ berip₅₋₆ manta₇₋₈ yäp₉ terekturna₁₀ närsä₁₁
 elip₁₂ kälidim₁₃₋₁₄
 私は、朝、トラクタで町へ行つて、チョチュレを食べて、トラクタに物を買つて戻つて来た。
- 02b **xaynigima₁ ?**
 öygima₁ ?
 家に {戻つてきたの} かい？
- 03a **mmm₁, kalaḡ₂ jaydin₃⁶ käs₄ häs₅ völdi₆ digän₇ soxunni₈ di:di₉ qilip₁₀⁷**
häs₁₁ voldum₁₂
 mmm₁, yuquri₂ yä:di₃ adäm₄ kälidi₅₋₆ digän₇ ḡäpni₈ aḡlap₉₋₁₀ kälidim₁₁₋₁₂
 ええ、上のほうから人が来たという話を知つて（～聞いて）来た {私は}。
- 04a **xaynigä₁ häs₂ volup₃ bula:₄ bilän₅ niga:laštım₆**
 öygä₁ kelip₂₋₃ bula:₄ bilän₅ körüštüm₆
 家に {帰つて} 来て、この人たちと会つた {私は}。

⁵ 1997年の語彙調査では *gušä mačal* という形が得られた。

⁶ 1997年の語彙調査では *jäy* という形が得られた。

⁷ 会話を録音後コンサルタントに文意を確認した際に、*di:di qilip* の代わりに *gušlap* でもよいとのコメントを得た。

- 05a **iškam₁ azraq₂ gušnidi₃**
 qosaq₁ azraq₂ ačti₃
 お腹は少しすいた。
- 06b **säpči₁ xo:lidiŋmu₂ ?**
 qoğun₁ yidiŋmu₂ ?
 メロンを食べたのかい {あなたは} ?
- 07a **azraq₁ xo:lidi₂**
 azraq₁ yidi₂
 少し食べた {私は}。
- 08a **kämtä:₁ [xo₂...]**
 azraq₁ [ye₂...]
 少し [食べ...]
- 09b **ämsä₁ azraq₂⁸ šir₃ xo:la₄**
 ämsä₁ azraq₂ čay₃ ič₄
 それでは、少しお茶を飲みなさい。
- 10a **birdäm₁ turup₂ xo:lay₃ ya₄**
 birdäm₁ turup₂ ičäy₃ ya₄ (~ čü₄)
 少し経ってから飲もう。

テキスト3 2001年8月27日 Shäyxil 村にて20代の男性2名の会話

- 01a **sän₁ bäččäŋni₂ qeli:ğa₃ häs₄ qildiŋmu₅ yoq₆ ?**
 sän₁ balaŋni₂ baza:ğa₃ apa:diŋmu_{4.5} yoq₆ ?
 おまえはおまえの子供をバザールに連れていったのか？

⁸ 会話を録音後コンサルタントに文意を確認した際に、azraq の代わりに kämtä:räk でもよいとのコメントを得た。kämtä:räk はエイヌ語彙に特有の形。

- 02b **yaq₁ häs₂ qimmidim₃**
 yaq₁ apa:midim₂₋₃
 いや、連れていっていない {私は}。
- 03b **män₁ a:₂ xaynigä₃ čiqsam₄ bächčilirim₅ xäpligili₆ turuptu₇**
 män₁ a:₂ öygä₃ čiqsam₄ balilirim₅ oxligili₆ turuptu₇
 私があの部屋に入ると、私の子供たちは眠そうにしていた。
- 04b⁹ **andin₁ ma:₂ kalaŋ₃ jeydin₄¹⁰ häs₅ bo:ğan₆ käslä:₇ bilän₈ niga:lišivitip₉**
 kiyinraq₁₀ andin₁₁ qeli:gi₁₂ bächčilirimni₁₃ gi:lap₁₄ baray₁₅ dāp₁₆ ha:zir₁₇
 xaynidi₁₈ qaldi[m]₁₉
 andin₁ ma:₂ yuquri₃ yä:di₄ kä:gän₅ kišilä:₇ bilän₈ körüşivitip₉ kiyinrāk₁₀
 andin₁₁ baza:gi₁₂ balilirimni₁₃ elip₁₄ baray₁₅ dāp₁₆ ha:zir₁₇ öydi₁₈ qaldim₁₉
 それから、この上のほうから来た人たちと会ってしまってから、後で町に私の
 子供たちを連れて行こうと {思っ}、今は家に留まっている {私は}。
- 05a **suruqqa₁ av₂ dāxlidiŋmu₃ ?**
 qonaqqa₁ su₂ bā:diŋmu₃ ?
 とうもろこしに水をやったか？
- 06b **dāxliduq₁**
 bā:duq₁
 やった。
- 07a **hāmsi₁ tūgidima₂ ?**
 hāmsi₁ tūgidima₂ ?
 すべて終わったか？
- 08b **yiki₁ qaldi₂**
 birisi₁ qaldi₂
 {仕事のうちの} ひとつが残っている。

⁹ ウイグル語は、andin yoquri yä:diŋ kä:gän ma: kišilä: bilän körüşivitip という語順のほうが一般的であるようだ。

¹⁰ 1997年の語彙調査では jāy という形が得られた。

テキスト4 2001年8月27日 Shäyxil 村にて20代の男性2名の会話

- 01a **ma:vula:₁ širni₂ bisya:₃ xo:lidimu₄ kämtä:₅ xo:lidimu₆ ?**
 ma:vula:₁ čayni₂ köp₃ ičtimu₄ az₅ ičtimu₆ ?
 この人たちはお茶をたくさん飲んだか、少ししか飲んでいないのか？
- 02b **kämtä:räk₁ xo:lidi₂**
 azraq₁ ičti₂
 少ししか飲んでいない。
- 03a **bisya:₁ xo:limaptu₂**
 köp₁ ičmäptu₂
 たくさんは飲まなかったようだね。
- 04b [...] **iškimi₁ taza:₂ gušnimigan₃ oxšaydu₄**
 qosiğ₁ taza:₂ ačmigan₃ oxšaydu₄
 お腹が十分すいていないようだ。
- 05a **sava:da₁ mačal₂ xo:lap₃ häs₄ vo:ğan₅ soxun₆**
 ättigändä₁ tamaq₂ yäp₃ kä:gän₄₅ gäp₆
 朝，食事を食べて来たということだね。

テキスト5 2001年8月27日 Shäyxil村にて20代の男性2名の会話

- 01a **bügän₁ qeli:da₂ kom₃ säpčilä:₄ ä:zanmidu:₅ ?**
 bügän₁ baza:da₂ tavuz₃ qoğunla:₄ ä:zanmidu:₅ ?
 今日はバザールで西瓜やメロンが安いかなあ？
- 02b **qeri:ğ₁ ba:saq₂ niga:laymiz₃**
 baza:ğ₁ ba:saq₂ qaraymiz₃¹¹
 バザールに行ったら，見てみる {私たちが}。

¹¹ ウイグル語としては bilimiz のほうが一般的。

- 03b **gi:lisaq**₁ [...]
 alsaq₁
 買ったら {私たちが}...

テキスト6 2001年8月27日 Shäyxil 村にて20代の男性2名の会話

- 01b män₁ tünü:gün₂ **qeli:[din]**₃ bir₄ **pran**₅ **gi:lap**₆ kä:gän₇
 män₁ tünü:gün₂ baza:din₃ bir₄ köynäk₅ elip₆ kä:gän₇
 私は昨日パズールからシャツを1枚買ってきた。
- 02b heli₁ **däxkän**₂
 heli₁ yaxšikän₂
 かなりよさそうだ。
- 03a **däx**₁
 yaxši₁
 よかったね。
- 04b sän₁ bügän₂ **hatta:din**₃ **čiz**₄ **gi:limidiŋma**₅ ?
 sän₁ bügän₂ baza:din₃ närsä₄ almidiŋma₅ ?
 おまえは今日、町からものを買わなかったのか？
- 05a yaq₁ män₂ **gildiriŋgi**₃ **čiz**₄ **gi:lidim**₅
 yaq₁ män₂ terekurği₃ närsä₄ aldim₅
 いいや、私はトラクタのためにもものを買った。
- 06b **ja:m[a]**₁, **pran**₂, **izä:**₃, **payčiz**₄ **gi:limidiŋmu**₅ ?
 čapan₁, köynäk₂, išan₃, ayaq₄ almidiŋmu₅ ?
 上着とかシャツとかズボンとか靴とか、買わなかったのかお前は？
- 07a **so:va**₁ **kämtä:**₂
 pul₁ az₂
 お金が少ない。

- 08b buda:₁ so:vini₂ bisya:raq₃ gi:lap₄ qeli:ğa₅ ba:ğanda₆ gi:la:₇ sän₈
 buda:₁ pulni₂ köpräk₃ elip₄ baza:ğa₅ ba:ğanda₆ al₇ sän₈
 今度お金をより多く持って、バザールに行った時に、買いなさいな。

- 09a so:vini₁ bisya:₂ häs₃ qilip₄ gi:limaxči₅
 pulni₁ köp₂ apirip_{3.4} almaxči₅
 お金をより多く {ポケットに} 入れて、買うつもりだ。

テキスト7 2001年8月27日 Shäyxil 村にて20代の男性2名の会話

- 01a suruq₁, gendim₂, pümbä₃ bita:lap₄ ämdi₅
 qonaq₁, buğdäy₂, paxta₃ setip₄ ämdi₅
 とうもろこし、小麦、綿を売って、そこで
- 02b küz₁ völdi₂, pümbä₃ bita:limisaq₄ so:va₅ nis₆
 küz₁ völdi₂, paxta₃ satmisaq₄ pul₅ yoq₆
 秋になった、綿を売らなければ {我々は}、金がない。
- 03b pümbä₁ bita:lisaq₂ [hänzä]₃ so:va₄ bisya:₅ boludu₆
 paxta₁ satsaq₂ [änkizä]₃ pul₄ köp₅ boludu₆
 綿を売れば {我々が}、その後はお金が多くなる。
- 04a čiz₁ gi:laymiz₂
 närsikiräk₁ setivalimiz₂
 品物を買う {我々は}

テキスト8 2001年8月27日 Shäyxil 村にて20代の男性2名の会話

- 01a män₁ sava:da₂ hatta:di₃ yäk₄ duxtä:₅ niga:lidim₆
 män₁ ättigändä₂ baza:di₃ bir₄ qiz₅ kö:düm₆
 私は朝、町でひとりの娘を見た。

- 02a **bäk₁ ruylux₂¹² zä[ŋ]kän₃**
 bäk₁ čirayliq₂ ayalkän₃
 とても美しい女性だった。
- 03b **kalaŋmu₁ xurdämmu₂ ?**
 čoŋmu₁ kičikmu₂ ?
 年増か若いのか？
- 04a **xurdän₁ duxtä:kän₂**
 kičik₁ qizkän₂
 若い娘だった。
- 05a **bäk₁ royluq₂**
 bäk₁ čirayliq₂
 とても美しい。
- 06a **gultxa:nida₁ kä:ga:liq₂ qilidikän₃**
 doxturtxa:nida₁ išläydikän₂₋₃
 病院で働いているらしい。
- 07b **guluččimikän₁ y[a]qm[u]₂ ?**
 doxturmikän₁ yaqmu₂ ?
 医者なのか、そうでないのか？
- 08a **gulučči₁ ämäskän₂, kä:ga:kän₃**
 doxtur₁ ämäskän₂, iščikän₃
 医者ではないようだ、労働者のようだ。

テキスト9 1999年8月11日 Xeni 村にて70代の男性のモノローグ

- 01 **män₁ tünü:gün₂ [...] hatta:ği₃ ündüm₄¹³**
 män₁ tünü:gün₂ [...] baza:ği₃ ba:dim₄
 私は昨日バザールに行った。

¹² 1997年の語彙調査では royluq という形（以下の 05a に現れている）が得られた。

¹³ ün- がエイヌ語彙かどうかは不明だが、本稿ではエイヌ語彙として示すことにする。

- 02 **yäk₁ gänäp₂ galt₃ bolup₄ qaptikän₅**
 bir₁ qoy₂ kisäl₃ bolup₄ qaptikän₅
 一匹の羊が病気になってしまった。
- 03 **säksän₁ koyğa₂ päräxättim₃**
 säksän₁ koyğa₂ sattim₃
 80円で売った。
- 04 **so:visiqä₁ säpči₂ doŋgay₃ gi:lidi₄**
 pulığa₁ qoğun₂ tavuz₃ aldim₄
 そのお金でメロンと西瓜を買った。
- 05 **bäččilä:ğä₁ kartlap₂ bä:dim₃**
 balila:ğä₁ kesip₂ bä:dim₃
 子供たちに切ってやった。
- 06 **bäččilä:₁ xo:lidi₂**
 balila:₁ yidi₂
 子供たちが食べた。
- 07 **iškäm₁ sär₂ bolup₃ oynap₄ guyt₅ qislidi₆**
 qosaq₁ toyup₂₋₃ oynap₄ naxšä₅ eytti₆
 {子供たちは} お腹がいっぱいになって、遊んで歌を歌った。
- 08 **bäččilä:₁ iškäm₂ sär₃ bo:ğandin₄ kiyin₅ varaq₆ qislidi₇**
 balila:₁ qosaq₂ toyğandin₃₋₄ kiyin₅ xät₆ yazdi₇
 子供たちはお腹がいっぱいになってから勉強した。
- 09 **varaq₁ qislap₂ bäččilä:₃ hatta:ğä₄ ündi₅**
 xät₁ yezip₂ balila:₃ baza:ğä₄ kätti₅
 勉強してから、子供たちはバザールに行った。

テキスト10

1999年8月11日 Xeni 村にて70代の女性が語ってくれたコシヤック（民衆詩）

- 01 **yäk₁ ošnidä₂ bu₃ tämbüt₄**¹⁴
 bir₁ möridä₂ bu₃ xurjun₄
 ひとつの肩にこの袋 {を背負い}
- 02 **äyna:r₁ ikän₂**¹⁵ ni₃ **käyda:**¹⁶₄
 tiläydikän₁₋₂ [...] ₃₋₄
 物乞いするそうだ, {どんなにからかっても (?) }
- 03 tizda₁ quvät₂ bolmisa₃
 tizda₁ quvvät₂ bolmisa₃
 膝に力ないならば
- 04 qulda₁ hasa:₂ ne₃ payda₄¹⁷
 qolda₁ hasa₂ nä₃ payda₄
 手に杖があっても何の役に立つものか

テキスト11 2001年8月24日 Xeni 村にて70代の女性が語ってくれたコシヤック

- 01 keliptu₁ ketiptu₂ jahanni₃ iši₄
 keliptu₁ ketiptu₂ jahanni₃ iši₄
 来たり行ったりは世の中の常
- 02 qosaqni₁ toygazgan₂ **suruxni₃** eši₄
 qosaqni₁ toygazgan₂ qonaqni₃ eši₄
 腹を満たすのはとうもろこしの食事

¹⁴ bu tämbüt あるいは, yäk tämbüt とも。

¹⁵ 正確な意味は不明。

¹⁶ ni käyda: は ni kayda: とも。意味は不明。

¹⁷ ne payda は ni payda とも。

- 03 bizni₁ qäsligän₂ düşmänni₃ işi₄
 bizni₁ qäsligän₂ düşmänni₃ işi₄
 我々に害を与えるのは敵の仕業
- 04 bizni₁ qäsligän₂ düşmänni₃ kesilsin₄ beşi₅
 bizni₁ qäsligän₂ düşmänni₃ kesilsin₄ beşi₅
 我々に害を与える敵の頭（首）が切られるように。

5. 会話データからわかること

以上のテキストは、コンサルタントにエイヌ語で話してほしいと頼んで話してもらったもので、即興ではあるが自然な会話ではない。また、分量も極めて僅かである。従って、標本としては全く頼りないが、文字化することのできた資料は今のところこれだけなので、とりあえずこの資料の範囲でわかることをまとめてみることにする。

まず、3節でエイヌ語とウイグル語の違いは語彙だけであると述べたが、そのことが会話資料からも裏付けられる。機能語はすべてウイグル語と同じであり、エイヌ語独自の語は内容語に限られる¹⁸。

エイヌ語の単語とウイグル語の単語の対応も、ほぼ一対一であると言うことができる。つまり、エイヌ語独特の構文などはなく、ウイグル語の単語を対応するエイヌ語の単語に置き換えれば、エイヌ語のテキストができあがると言える。例外は、エイヌ語の *häs vol-* (*bol-*) がウイグル語の *käl-* に対応するように、ウイグル語の単語に対応するエイヌ語の単語が複合語である場合である。ただし、*bol-*, *qil-* との複合動詞が多く、種類は少ない。

次に会話資料から明らかになるのは、エイヌ語のテキストがどのくらいの割合でエイヌ語彙（ウイグル語では用いられない語彙）を含んでいるかという点である。テキスト毎に、エイヌ語テキスト中に含まれるエイヌ語彙の割合を示したのが表2である。

¹⁸ 内容語か機能語かが常に明確に区別できるとは限らない。数量詞や一部の副詞のように、どちらに分類すべきか迷う単語もある。ただし、仮に数詞を機能語だとすれば、少ない数を表す数詞はエイヌ語彙に含まれることが語彙調査からわかっているので、この説明の例外となる。

表 2：テキスト毎のエイヌ語彙に属する単語の割合

	総語数	エイヌ語彙語数	エイヌ語彙の比率
テキスト1	33	22	0.67
テキスト2	49	32	0.65
テキスト3	43	21	0.49
テキスト4	20	16	0.80
テキスト5	9	6	0.67
テキスト6	40	27	0.68
テキスト7	19	14	0.74
テキスト8	23	17	0.74
テキスト9	39	28	0.72
テキスト10	15	5	0.33
テキスト11	17	1	0.06
合計	307	189	0.62

女性に語ってもらったテキスト 10, 11 を除けば、いずれのエイヌ語テキストも、5割から8割のエイヌ語彙を含んでいる。つまり、エイヌ語のテキストにはウイグル語の単語も含まれるが、過半数が（恣意的であるが、仮にテキスト 3 も除外すれば約 7 割以上が）エイヌ語彙に属する単語ということになる。なお、表 1 は、女性から得たテキスト 10, 11 が男性によって語られた他のテキストと異なる性質を持つことをも示している。これは、女性はエイヌ語を知らないという、2 節で紹介したアブダルの男性たちの発言を思い起こさせる。これら 2 つのテキストを除いた残りの 9 つのテキストでのエイヌ語彙の比率は、表 2 の値よりやや大きく、0.67 となる。

では、エイヌ語のテキストは、主にエイヌ語彙に属する単語がウイグル語の構文規則と形態規則にもとづき配列されたというだけで十分だろうか。そこで、同じくテキスト 10, 11 を除いた会話データを使い、単語のトークンとタイプの比率を求めてみると、結果は表 3 のようになった。

表 3：テキスト 1 ～ 9 のトークンとタイプの比率

	トークン数	タイプ数	token/type
エイヌ語彙	183	67	2.73
ウイグル語彙	92	48	1.92

これを見ると、エイヌ語のタイプ（語彙素）は、平均 2.7 回現れるのに対

し、ウイグル語のタイプ（語彙素）は、平均 1.9 回しか現れないことがわかる。つまり、エイヌ語彙に属する単語は、ウイグル語の単語に比べ、同じ単語が繰り返し現れる頻度が高いということを意味する。実は、ウイグル語の単語の中に *bol-* という動詞があり、この単語は何と 16 回も現れ、1 語でウイグル語彙のトークン・タイプ比率を引き上げている。そこで、ウイグル語彙から *bol-* の例を除くと、ウイグル語彙のトークン・タイプ比率はさらに下がり、1.62 になってしまう。

もしエイヌ語のテキストに現れるウイグル語の単語が主に機能語で、内容語は主にエイヌ語彙の単語であるとすれば、トークン・タイプ比率は、ウイグル語彙のほうがエイヌ語彙より高くなることが期待される。ところが、表 3 の結果はその逆である。つまり、エイヌ語のテキストの中で、ウイグル語彙の単語が内容語としても使われていること、さらに、それらのウイグル語彙の単語は、エイヌ語彙の単語に比べ使用頻度が低いことが、表 3 から推定されるのである。

6. まとめ

本稿では、エイヌ語の会話データ（モノログや民衆詩を含む）を紹介した。量が僅かであるので、慎重に判断しなければならないが、エイヌ語とウイグル語の間に平行性があることを示せたのではないかと思う。また、女性が語ってくれた民衆詩を除けば、エイヌ語の会話ではエイヌ語彙の単語がかなりの割合で含まれるが、それらの多様性は高くなく、同じ単語が繰り返し使われることが多いことも指摘した。一方、エイヌ語の会話にはウイグル語彙も使われており、それらには機能語だけでなく内容語も含まれ、多様なウイグル語の単語がエイヌ語会話に現れるのではないかと推定した。もしこれらの点が、より多くのデータで確認することができるならば、エイヌ語を Bakker (2003) の言う *intertwined mixed language* と見なすことにおいて、より慎重になるべきということになる。いずれにしろ、データの質的特徴だけでなく、量的な特徴にも注目しつつ、また、秘密語という機能も考慮しながら、エイヌ語という現象の本質について、さらに考えていく必要がある。

参考文献

- Bakker, Peter. 2003. Mixed languages as autonomous systems. In: Yaron Matras and Peter Bakker (ed.) *The mixed language debate*, 107–150. Berlin/New York: Mouton de Gruyter.
- Grenard, F. 1898. *Le Turkestan et le Tibet: étude ethnographique et sociologique*. Paris: Ernest Leroux.
- Hayasi, Tooru. 1996. Dialect distribution in dialect boundary areas: the case of the Bolu dialect of Turkish. In: Lars Johanson (ed.) *The Mainz meeting: proceedings of the Seventh International Conference on Turkish Linguistics August 3-6, 1996*, 580–593. Wiesbaden: Harrassowitz Verlag.
- Hayasi, Tooru, Sabit Rozi, Tahirjan Muhämmät and Wang Jianxin. 1999. *A Šäyxil vocabulary: a preliminary report of linguistic research in Šäyxil village, southwestern Xinjiang*. Kyoto: Kyoto University.
- 林 徹, サービット・ローズィー, ターイルジャン・ムヘツメト, 王建新 2002. 「ホータンエイヌ語資料」『ユーラシア周縁チュルク系諸言語の調査研究』, 373–439. 東京
- 林 徹 2007. 「「エイヌ語」の語彙をめぐる一考察」『移民コミュニティの言語の社会言語学的研究』(研究代表者: 日比谷潤子) 平成16年度～平成18年度科学研究費補助金(基盤研究(B)) 研究成果報告書, 11–24.
- Lee-Smith, Mei W. 1996. The Ejnu language. In: Stephen A. Wurm, Peter Mühlhäusler and Darrell T. Tryon (eds.) *Atlas of languages of intercultural communication in the Pacific, Asia, and the Americas*, vol. II.2, 851–863. Berlin/New York: Mouton de Gruyter.
- Wurm, Stephen A. 1997. Two Turkic-based hybrid languages in north-western China. *Turkic Languages*, 1/2, 241–253.
- Zhao, Xiangru and Aximu. 1981. Ainuyu de shuci [The numerals of the Eynu language]. *Minzu Yuwen*, 2, 44–48.
- Zhao, Xiangru and Aximu. 1982. Xinjiang Ainuren de yuyan [The language of the Eynu people in Xinjiang]. *Yuyan Yanjiu*, 1982/2, 259–279.

The Eynu and Uyghur lexemes in conversation data

Tooru Hayasi
(University of Tokyo)

Eynu, a secret language spoken in the southern part of Xinjiang Uyghur Autonomous Region in China, has been claimed to be a mixed language consisting of Persian lexicon and Uyghur grammar. During our investigation of Eynu in 1999 and 2001, which aimed to collect lexical data, we also had opportunity to record several pieces of dialogue, monologue and folklore. These discourse data show us that more than half of the words used in them are words of the Eynu lexicon, i.e., words found exclusively in Eynu discourse. Uyghur words, i.e., words that can be used in Uyghur discourse, are in minority. This result seems to be consistent with the argument that Eynu is an intertwined mixed language. Yet, the high ratio of Eynu words to Uyghur words in our Eynu conversation data may also be realized by the high frequency of Eynu words. An Eynu word is used 2.73 times on the average, while a Uyghur word is recurred just 1.92 times. This is contrary to our expectation from the claim that Uyghur words used in Eynu discourse are mainly function words, since functions words are expected to be more frequent than content words. It would thus be reasonable to consider that Uyghur content words also play an important role in Eynu discourse. The variety in the topic of Eynu discourse might be more dependent on Uyghur content words than Eynu words, the diversity of which is rather limited.